

石川線最終電車繰り下げと関連事業の提案

利用促進の交通実験とモビリティ・マネジメントを兼ねて

金沢・LRT と暮らしを考える会

[背景]

平成 23 年に、「石川線・浅野川線利用促進連絡会」が発足し、駅の清掃や花植など、着実に取り組みを重ねています。しかし、残念ながら、今のところ石川線の利用者数やサービス水準に大きな変化はみられません。

一方、石川線に対する住民の期待や要望は、高齢化が進み、また、沿線への都市機能の集約が進むにつれ、今後は徐々に高まってくると予想されます。100 年も存続した路線だけに、潜在的な需要も少なくないと思われます。

その一つが、終電の繰り下げの要望です。沿線住民が電車で片町に飲食に来て、「終電が早く、落ち着いて夜の街を楽しめない」、「二次会にも行きたかったが、一次会で切り上げた」という声が少なからず聞こえてきます。

[提案の概要]

そこで、利便性向上の具体策として、まずは試験的に金曜日と土曜日のみ、野町発の最終電車を「23 時 30 分」に設定してみてもいかがでしょうか。（鶴来着は「24 時 00 分」になります。）

石川線の有効活用は沿線住民の多くが望んでいます。富山ライトレールのように、朝夕 10 分間隔、昼間 15 分間隔のパターンダイヤが望ましいのはいうまでもありません。しかし、レールが野町止まりとなっている現状では、そのような抜本的改善を行うのは難しいといわざるをえません。

しかし、終電の繰り下げは現実的に十分可能であると思われます。それは、利用者にとって目に見える利便性向上策であるといえます。また、その周知を通じて、石川線の存在を広く市民に知らせることができそうです。

さらに、この試み自体を、「モビリティ・マネジメント（MM）」の素材として、将来のさらなる利用促進につなげていくことも可能です。

[ポイント]

交通施策は「総合的な実践」とならざるをえません。施策の横断、主体の連携を図り、金沢都市圏における公共交通の「次のステージ」への橋頭堡とします。

施策

- ・石川線の利用促進（交通）
 - ・中心市街地の活性化（まちづくり）
 - ・MMの実施（コミュニケーション）
- 「三位一体」の「総合的」な施策

主体

- ・交通事業者（北陸鉄道）
 - ・行政（金沢市・白山市・野々市市）
 - ・住民（沿線町会・商店街・NPO）
- 「三者協働」の具体的な「実践」

[目標]

石川線に関係をもつ様々な主体の参加を得て、計画を進めます。北陸鉄道、利用促進会議（行政と沿線住民）のほか、片町・野町・広小路・西茶屋街等の周辺商業関係者、学識者、市民団体が、率直に意見交換しながら、協働の「交通まちづくり」事業として力強く進め、「地域の総合力」によって公共交通を改善するモデルケースとします。

交通事業の採算（乗車人員）はもちろん重視します。（というより、交通事業者が主体的に乗客を増やす営業努力が必要なのはいうまでもなく、終電繰り下げもサービス向上策の一つの選択肢として検討されるものと思われます。）

その一方、本プロジェクトは、まずは石川線への親しみを増す「きっかけ」として位置づけられます。利用者増加をめざしつつ、「石川線は変わりつつある」という期待感が少しでも沿線住民、そして市民の間に広がることを目標とします。

その成果は、アンケート等のMMの手法を使って検証します。このような取り組みを着実に積み重ねることが、101年目以降の石川線の飛躍につながると考えます。

また、健康増進のため、そして新幹線の開業を機に、金沢でも「徒歩」の価値が見直されています。「金沢駅から近江町まで」と、「野町駅から犀川大橋まで」はほぼ同じ約0.9km、時間で11～12分程度です。新幹線客ならずとも、普通に歩いて移動できる距離なのです。

本プロジェクトは、野町駅を起点に、犀川河岸、西茶屋街、千日町、寺町界隈を気楽に散策し、さらに、散歩がてら立ち寄る商店街を活性化するための「きっかけ」ともします。「公共交通と徒歩の組み合わせ」の意義がより広く認識されれば、おのずと「過度な自動車依存のライフスタイル」は是正され、「持続可能な公共交通」が確立されていくものと考えます。

石川線沿線住民の片町界隈への移動は、石川線のほかは、ほとんどが自動車（運転）、自動車（同乗）、バス、タクシー、自転車、徒歩のいずれかによります。このうち、“石川線+徒歩”のシェアを数%でも引き上げたいものです。

[具体案]

具体的には、次の施策を行います。

①野町駅への移動は、徒歩に加え、バスも利用します。金沢駅発で、「23時20分」頃に野町駅着の終バスを設定し、武蔵界隈の客も拾います。

なお、この終バスに限り、石川線への乗り継ぎ客のみ運賃（連絡乗車券）を100円にすれば、石川線の利用が増えるのみならず、事業者の営業努力が目に見え、企業イメージのアップにつながります。

②新西金沢駅着を「23時34分」とし、JR西金沢駅「23時51分」発の小松行き最終電車に接続します。

③昼夜を問わず徒歩で野町駅に向かう人も少なくないことから、終電繰り下げを機に、片町から野町駅にかけての「散策」ルートマップ（大通りや用水沿いの小道）を作成します。立ち寄り需要も考え、広小路や野町の商店を紹介し、「ちょっと寄り道しませんか」という趣旨で西茶屋街や犀川沿いの散策路も掲載します。このマップは周辺の飲食店に置かせてもらい、石川線の利用を促します。

④石川線を利用して片町界隈で飲食してもらうために、飲食店の組合等と連携します。野町駅で証明書もらい、あるいは所定の用紙にスタンプを押してもらい、それを提示すれば、一品無料な

どの特典がつくような仕掛けをつくります。

- ⑤そのための媒体として、例えば「金沢情報」のようなフリーペーパーを利用します。1頁か半頁分のスペースをもらい、MMを活用して公共交通の利用促進を図ります。(次頁の図をご参照ください。)
- ⑥最終電車の愛称を募集し、優秀作品には懸賞を出します。この公募を通じて、石川線への注目度をさらに高めます。
- ⑦「知らないから乗らない」という人が少なからず存在するという単純な事実を踏まえ、これら一連の施策について、マスコミに積極的に情報提供し、節目節目に報道で取り上げてもらうよう努めます。
- ⑧一連のプロジェクトに共通するロゴマークをつくり、イメージカラーを定めます。また、愛称とロゴマークを付したポスターやチラシを作成し、キャンペーンを行います。
- ⑨MMの素材とします。野町駅で乗客にアンケートを渡したり、協力店舗にアンケート付きのリーフレット等を置いてもらったりして、公共交通利用への動機付けを図ります。その効果は、学識者や学生の協力を得て検証します。

また、石川線を利用する北陸先端大と金沢工大の、学生をはじめとする関係者を対象に、石川線利用と中心市街地への外出の回数を事前と事後に分けて調査します。

- ⑩当会のホームページや会報「金沢 LRT だより」等に、富山市の「とやまレールライフプロジェクト」における「レールライフ実践人」の紹介のように、経験談や感想を載せます。
- ⑪「サイガワあかりテラス」などの地域イベントに、石川線の紹介コーナーを設けます。
- ⑫運行開始時期の目標は、平成 28 年 3 月のダイヤ改正時とします。
- ⑬運行開始に合わせ、大会主催で「電車を使う豊かな暮らし」をテーマにシンポジウムを開催します。また、3月20日の「終着駅サミット in 鶴来」でも終電繰り下げのPRを行います。
- ⑭MMのためのリーフレットやアンケート、散策マップ等の作成、広告・宣伝等の諸費用は利用促進会議の予算を使えないか、検討してもらいます。(金沢市・白山市・野々市市の担当部署に掛け合います。)

[メモ]

- MMは、行政だけでなく、交通事業者が主体的に加わらねば、継続して粘り強く取り組むことはできません。また、増便等のサービス水準向上策とセットでなければ、なかなか成果は上がりません。

本プロジェクトは、金沢都市圏では従来になかった、関係者全員参加型で、かつ交通実験との一体型のMMをめざします。成功要因、失敗要因ともに、以降の施策展開に活かせるよう、プロジェクトの推進体制には専門家を含めます。（「金沢都市圏の都市と環境のあり方に関する検討会」と協働したい。）

- 石川線は行政においても「市民の日常生活に必要不可欠な交通手段」と位置づけられています。その改善策の「象徴的」な事例の一つとして本プロジェクトを提起します。石川線を存続させる以上、いずれは平日・土休日を問わず、23時台後半に終電が設定される時が来ると思われ、その試行の意味もあります。

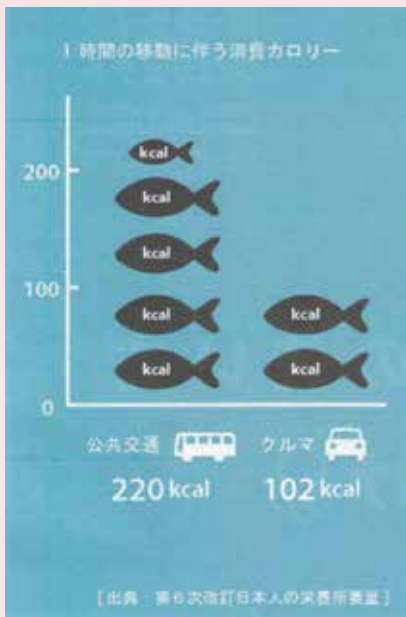
フリーペーパー活用の一例

石川線に乗って片町に行こう!

いつもはクルマでも、たまには電車で「まち」に出かけませんか?

この企画は、「石川線 de 片町」プロジェクトの一環として、公共交通活性化をめざして〇〇が運営しています。野町駅で乗車の際にアンケート用紙が配られますので、ご協力いただければ幸いです。

●公共交通で“ダイエット”しませんか?



例えば、1時間クルマで移動する代わりに電車・バスを使えば、それだけで消費カロリーは2倍以上になります。

詳細は、こちらをご覧ください。
www.××××××.jp



◆マスターから一言
カクテルでほっと一息つきませんか。
学生さんも歓迎です。
お店は犀川大橋を渡ってすぐ。野町駅も近いので、ぜひ石川線でお越しください。
気候が良ければ、ほろ酔い加減で犀川沿いのそぞろ歩きもいいですよ。



Bar コントワール

マスターはあらゆる資格の持ち主。知識も豊富。バーの入門店としても最適。

Information

- チャージ 1,000 円 (日替アミューズ付)
- カクテル 800 円～
- ウイスキー 700 円～
- フード類 600 円～

金沢市片町 2-22-17 幸楽ビル 2F

076-263-2510

営/ 19:00～翌 3:00 休/日曜

協力：石川県社交料飲生活衛生同業組合

★右のクーポンに野町駅でスタンプを押してもらい、お店にお渡しください。引き替えに、お好きなカクテルを一杯サービスします。

